平成28年度 貨物自動車運送事業における
中継輸送実証実験モデル事業 有識者検討会
第1回 議事概要

1. 日 時

平成28年9月23日（金） 13：30～15：00

2. 場 所

中央合同庁舎3号館4階 総合政策局局議室

3. 議事概要

○挨拶（加藤貨物課長）

昨年度は、実証実験を通じて中継輸送における課題のあぶり出しを行った。今年度は、中小のトラック事業者にとって、中継輸送に参加しやすい仕組みづくりを行っていきたい。その仕組みの一つとして組合やWebKIT等も活用できると想定している。

○今年度事業概要と実施ステップについて

(1) 参加事業者の募集について

（齊藤委員）

車両提供者のメリットに加え、荷物提供者のメリットも整理したうえで事業者を募集する必要がある。

(2) ペアリングについて

（森田委員）

現在想定されている実施概要は複雑すぎるのではないか。組合員をご紹介いただき、組合員を対象に（手持ちの荷がある事業者を）ペアリングしてはどうか。既存の組合内であればどの組合であっても普及実用化のスピードは速くなる。

（松崎委員）

事前のペアリングはかなり困難が想定されるので、十分な検討が必要である。

(3) コーディネーターについて

(森田委員)

ペアリングを作る際に昨年度整理した課題をクリアしながら進めていくことにコーディネーターの役割があるのではないかと。昨年度整理した課題を解決していくことが今年度の実証実験になると考える。

(加藤貨物課長)

森田委員の意見に同意である。

(森田委員)

昨年度より、より現実的な実証実験を行い、最終的にはマニュアル化して第三者が実施できるようにすることが目的ではないかと。

(加藤貨物課長)

中継輸送を実現するに当たり、どのような課題をどのように解決していけばよいか、現時点では整理できていないためコーディネーターが必要だろう。最終的に、コーディネーターの必要性についても検討したい。

(齊藤委員)

自然に中継輸送が成立するわけではないので、コーディネーターが存在するのではないかと。仕組みをどう作るかを検討する役割としてコーディネーターの価値がある。難しい役割である。中継輸送の実施前と実施中の2つの切り口から、コーディネーターの役割を整理する必要がある。

○中継輸送のニーズ分析、実証実験参加事業者募集について

実証実験の対象エリアについて

(森田委員)

今回の実証実験は、データ分析結果からペアリングが容易な都市と都市の間で行われるようだが、地方と地方、地方と都市の方が切実な問題となっている。これらの実証実験も行って欲しい。

以上